

平成27年度 奈良県立二階堂高等学校 学校評価総括表

No. 1

|   |                      |   |  |             |   |  |  |   |
|---|----------------------|---|--|-------------|---|--|--|---|
| 教育方針  |                      | 「磨き合い 共に輝け 二階堂」をスローガンに、校訓である「英知・誠実・剛健」を磨くべく校訓・校章を生かした学校運営に努める。<br>すべての生徒が「二階堂高校はいいね」と言える楽しい学校づくり（楽しい学校生活、わくわくする授業）を進める。 |  |             |   | 総合評価   |  |   |
| 平成26年度の成果と課題  |                      | 本年度の重点目標  | 具体的目標  |             |   | B  |  |   |
| 27年度からのキャリアデザイン科改編に向けて、魅力ある教育課程の編成が行われた。また先生方の粘り強い指導もあり、問題行動による指導件数が減少している。キャリア教育とインクルーシブ教育の充実に向け、すべての教育活動において、目的と理由を明らかにして、全員で取り組んでいくことが必要である。 |                      | 個に応じた指導を図ることにより、キャリア教育を推し進める。   | キャリアデザイン科の魅力ある教育課程を確立し、推進する。インターンシップ等を通じて生徒の勤労観・職業観を育む。進路目標を明確にさせ、希望の進路実現を図る。                |             |   |  |  |   |
|   |                      | 規範意識の向上を目指す。  | 基本的な生活習慣を確立させる。 時間を守る指導を徹底する。 絶えず身だしなみを意識する姿勢を持たせる。  |             |   |  |  |   |
|   |                      | 確かな学力を身につけさせる。  | 「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」を実感させ、学習意欲の高揚を図る。 学力養成講座や個に応じた指導の充実を図る。授業公開・研究等を充実し、教職員の資質と教科指導力の向上を図る。        |             |   |  |  |   |
|   |                      | 生徒の感性を磨き、豊かな人間性を育てる。  | 人権を尊重し、なかまを大切にする心を培う。分教室の設置に向けての課題解決と生徒同士の交流を図る。挨拶を通じて礼法指導に努める。ボランティア活動等を通じて奉仕の精神を養う。        |             |   |  |  |   |
|   |                      | 体力・忍耐力を高め、たくましい心身を育成する。   | 部活動を奨励し活性化を図る。食育の推進を図り健全な心身を培う。体験的な活動等を通じて自立心を養う。  |             |   |  |  |   |
|   |                      | 地域とともにある学校づくりを推進する。   | 中学生が来てよかった、保護者が行かせてよかったと思う学校づくりを推進する。地域に愛される学校づくりを推進する。地域に教育活動や学校情報を積極的に発信する。防災・安全管理体制を充実する。 |             |   |  |  |   |
| 分野  | 具体的目標<br>(評価小項目)     | 具体的方策・評価指標  |  | 自己評価<br>結果※ | 成果と課題<br>(評価結果の分析)  | 改善方策等  | 学校関係者評価<br>(結果・分析)<br>及び改善方法   |   |
| 学習  | 教科指導力の向上             | ・授業評価での「授業の内容が理解できる」のGPA3.4以上。  |  | B           | 「授業の内容が理解できる」の GPA3.3、昨年度の<br>数値より上がる。<br>第一学年にて英検受検者約 40% (延べ人数)<br>放課後の自主的な講座にほぼ全員が参加   | 校内授業研修を通して<br>教員同士で互いを高め<br>合う風土をつくる。  | 進路決定の助け<br>となる各種検定<br>受検者数の一層<br>の増加を望む。   |   |
| 指導  | 「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」を実感させる | ・各種検定を受検させることで、学びへの興味付けをする。受検者数・合格率ともに昨年度比 10%増。<br>・考査前補習を通して家庭学習習慣の確立を図る。補習参加数・出席率昨年度比 10%増。                          |  | A           |   |  |  |   |
| 生活  | 規範意識の向上              | ・対話と粘り強い指導を継続することによって問題行動の昨年度比10%減少とマナーの向上を実現する。  |  | A           | 問題行動による指導人数・指導件数ともに昨年同<br>時期に比較して30%以上減少している。<br>遅刻数は減少したが、同一人物の繰り返しが見ら<br>れる。服装の指導成果が表れなかった。<br>1年生中心に、積極的に家庭訪問を実施できた。<br>生徒の情報の共有化は不十分であった。   | 生徒理解と情報の共有<br>化を図り、機会に応じ<br>て粘り強い指導を継続<br>する。共通理解のもと<br>生徒指導に取り組む。   | 問題行動や遅刻<br>数の減少は先生<br>方の粘り強い指<br>導の賜である。<br>引き続き家庭と<br>の連携を密に。   |   |
|   | 基本的生活習慣の確立           | ・放課後等に遅刻指導や欠席を減らす指導を行い、昨年度比10%減を目指す。<br>・月1回集会等を利用して、服装・頭髪等の身だしなみの指導を行う。  |  | B           |   |  |  |   |
|   | 指導                   | 生徒理解と家庭との連携   | ・第1学年において期間を定めて、家庭訪問を実施する。<br>・報告・連絡を徹底して、生徒情報の共有化を図る。                                       |             |   |  |  | B |
| 情操  | 読書週間の定着              | ・『朝の読書』お薦め本のリストを作成し、『朝の読書』を充実させる。<br>・図書委員会活動を活発にする。(委員会の定期的な実施)  |  | B           | 『朝の読書』については計画通り実施した。図書委<br>員会(読書会を含む)を定期的に開き活動の活性化<br>を図った。<br>勾玉祭は生徒の主体的な運営までは至らなかつ<br>た。<br>クリーンキャンペーンを年2回実施し、美化委員<br>の他にも多くの生徒がボランティアで参加した。<br>清掃点検は徹底できなかった。<br>各クラス計画通り実施できた。<br>トイレ清掃ボランティアは目標回数以上に実施で<br>きた。 | 図書館活動や文化行事<br>について今後クラス減<br>や生徒の特性に対応し<br>た内容を考えていく必<br>要がある。<br>美化委員による清掃点<br>検を実施し、美化活動<br>を活性化し意識向上に<br>つなげる。 | 毎月のトイレ清<br>掃ボランティア<br>や通学路清掃な<br>どの活動は、生<br>徒の人格形成に<br>もよい影響を与<br>える。生徒会役<br>員だけでなく学<br>校全体の取り組<br>みとして発展さ<br>せてほしい。 |   |
|   | 文化行事の充実              | ・生徒会と連携し生徒の主体的な活動を促進する勾玉祭(文化祭)を目指す。   |  | B           |   |  |  |   |
|   | 指導                   | 環境美化意識の向上   | ・クリーンキャンペーンを通して環境美化の啓発に努める。<br>・清掃点検を徹底して一層の美化を推進する。(点検率 100%)                               |             |   |  |  | B |
|   | 指導                   | 奉仕精神と勤労観の育成   | ・生徒会のボランティア活動の充実。トイレ清掃ボランティア活動年 6 回以上の実施と参加延べ生徒数<br>200 名以上。<br>・各クラス年1回の通学路清掃の実施。           |             |   |  |  | A |
| 健康  | 生徒の体力の向上と健康維持        | ・運動部への加入率をあげ、活動が継続できることを目指す。昨年度比 10%増。<br>・体育授業での体力作りの種目を計画し運動量を増やす。<br>・新体力テストの校内平均を奈良県の平均まで引き上げる。                     |  | C           | 第1学年男子と各学年女子のクラブ加入率が低い。体育の授業で体力作りも行っているが、県平<br>均まではほど遠い。<br>第1学年への学習会が実施でき、アンケート<br>も行えたが生活習慣の改善までは至らなかった。  | 教育活動のいろいろな<br>場面を通じて、運動に<br>親しみ主体的に行える<br>力が育成出来るよう務<br>めるとともに生活習慣<br>の改善に努力する。                                  | 部活動加入率ア<br>ップのための方<br>策を引き続き検<br>討すべき。食育<br>は保護者を巻き<br>込んだ取組を。   |   |
|   | 管理                   | 食育の充実   | ・生徒及び保護者への講演会やアンケートの実施。<br>・保健だより(毎月発行)とアンケート集約の活用。  |             |   |  |  | B |

※ 自己評価結果について … A:十分である(よくできた) B:ほぼ十分である(ほぼできた) C:あまり十分でない(あまりできなかった) D:改善を要する(できなかった)

| 分野         | 具体的目標<br>(評価小項目)          | 具体的方策・評価指標   | 自己評価<br>結果※ |   | 成果と課題<br>(評価結果の分析)  | 改善方策等  | 学校関係者評価<br>(結果・分析)<br>及び改善方法               |
|------------|---------------------------|--|-------------|---|---|--|--|
| キャリア教育     | 勤労観・職業観の育成                | ・インターンシップ先指導担当者からいただく総合評価。(「3良好: 30%」「2普通: 60%」以上を目標とする。)  | B           | B | 3良好: 28%、普通 54%であった。事前学習を充実させて、この意義をしっかりと伝える必要あり。                 | 就職指導については学年教員が一丸となって取り組めたが、進学補習は学力向上担当部署や教科担当者とより密な連携が必要である。 | 次年度も応募前職場見学の悉皆実施など生徒の進路実現に向けた学校全体での取組の継続を。 |
|            | 進路目標の明確化と進路実現             | ・学校推薦の就職応募者に対し、応募前職場見学の積極的参加を促す。(参加率 80%を目標とする。)   | A           |   | 見学が可能な事業所については今年もほぼ全員が行った。その後の指導も効果的に行えた。                         |  |  |
|            | 卒業後に要する知識・技能・態度の育成        | ・学年・学級と連携し、まがたま塾への積極的参加を促す。(申込者の 70%以上参加を目標とする。)   | C           |   | 講座の後半になると参加者が減少してしまった。指導担当者の固定など改善策を検討したい。                        |  |  |
| 地域・保護者との連携 | 学校関係者との連携                 | ・PTA活動への保護者の参加を促進する。(参加者数 10%増)<br>・学校評議員からのアドバイスを学校運営に活かす。                                      | A           | B | 各種助言を得て、PTA 総会の参加者は 1.2 倍、大学短大専門学校見学会は 1.5 倍の参加を得た。               | ホームページ等を通じた情報発信を一層積極的に行う。地域や保護者が興味関心を抱ける行事内容を検討する。           | ホームページの一層の充実を。<br>AED訓練等をPTAと共催で実施されたい。    |
|            | 学校評価制度の活用と充実              | ・各種アンケートを実施・分析して学校改善に反映させる。保護者アンケート回収率 90%以上。  | B           |   | アンケート回収率は目標付近の 80%台に上昇した。   |  |  |
|            | 開かれた学校づくり                 | ・学校ホームページの充実。保護者アンケートにおいて「本校のHPをよく見ている」のGPA2.0以上。<br>・学校開放・地域交流の推進。奈良県教育週間への参加率昨年度比 10%増。        | B           |   | 生徒会を中心として、トイレ清掃ボランティアや花いっぱい活動等の積極的な活動を行えた。                        |  |  |
| 防災         | 安全教育・防災体制の充実              | ・避難訓練の実施と防災教育の充実   | B           |   | 地震発生とその後の火災発生という状況での避難訓練を実施し、防災対応力を高めたが、まだまだ災害は他人事という意識が生徒のなかにある。 | 地震などの災害は誰にも起こりうるかもしれないという意識を持たせることが必要。                       | 次年度もナラ・シェイクアウトへの参加等の継続した取組を。               |
| 人権・特別支援教育  | 生徒の人権尊重の意識の確立             | ・社会人としての姿勢を養う人権教育ホームルームの創造を図る。<br>・人権系の活動を充実させ、人権尊重の意識を高める。                                      | A           | B | 多様な人権課題について人権HRを展開できた。  | 多様な人権課題学習に取り組み、高等養護学校分教室との交流学习も進展させる。                        | 分教室設置に向けた取組や人権講演会など、多くの取組が充実               |
|            | 要支援生徒の把握と教育相談の充実          | ・生徒の様々な悩みを受け止め、子どもたちの自立や社会参加につながる解決策を組織的に考える教育相談をめざす。  | B           |   | 次年度以降の新たな積極的活動を企図したい。   |  |  |
|            |                           |  | B           |   | 別の教育相談を重ね、個々への支援を展開した。個別指導計画・特別支援の基準作りが課題である。                     |  |  |
| 国際理解教育     | 外国人生徒の支援体制の充実             | ・国際交流部の活動を活性化させることで、「帰国生」・渡日生徒を支援し、多文化共生社会に対する意識を高める。<br>・母語・日本語指導体制を確立し、検定の取得を推進する。             | B           | C | 勾玉祭の取り組みを通しルートと向き合き、県外教在日外国人生徒交流会にも 2回・3名参加した。                    | 国際交流研究会を通じ、外国人生徒(日本籍含む)の自立を支援する。                             | したものであったと新聞報道等で知った。                        |
|            | 各種校内研修の実施                 | ・特別支援教育の充実に向け、関係機関との連携を強化し、校内研修会を実施する。一人一人の教育的ニーズの把握に努める。<br>・教科を超えた授業公開・研究の実施。(延べ参加人数昨年度比 10%増) | B           |   | 教育研究所や医療機関と連携し、個別の特別支援教育を進める体制作りが一定程度できた。                         |  |  |
| 第1学年       | 基本的な生活習慣の確立・規範意識の向上・学力の定着 | ・欠席・遅刻への意識を高め、生徒との会話を増やし、信頼関係をより強化する。<br>・Brush up Time確認テスト平均点 70 点以上。                          | B           | B | Brush up Timeへの参加や取り組みが甘く、欠席・遅刻が学年の後半に増え補習を 25 時間実施した。            | 遅刻の指導や欠点者の扱いを強化させる。  | 入学時の全家庭への訪問や複数                             |
|            | 第2学年                      | 規範意識の向上を図る   | B           |   | 授業への遅刻入室は取り組んでいたが、欠席・遅刻が大幅に増えてしまった。                               |  |  |
| 第3学年       | 生徒の進路希望の実現を図る             | ・進路補習や面接指導の充実を図る。(進路補習参加率昨年度比 10%増、就職希望者全員の面接指導)<br>・進路未定者・フリーターを減らす。(昨年度比 10%減)                 | B           | B | 積極的に面接指導を受けるように指導し、進路未決定者を減らすように努めたが約 12%が未定である。                  | 「進路のしおり」活用の成果が出た。より効果的に活用できれば。                               | 時の進路面接指導等のきめ細やかな取組が成果                      |
|            | 総合                        | 教育活動全体の充実  | B           |   | B   |  |  |

※ 自己評価結果について … A: 十分である(よくできた) B: ほぼ十分である(ほぼできた) C: あまり十分でない(あまりできなかった) D: 改善を要する(できなかった)